

# 土木行政叢書第三卷「陸上小運送編」に就いて

九十九 洋生

「道路の改良」編輯者から陸運副監理官兼鐵道省事務官後屋敷保啓氏の執筆に係る「陸上小運送編」に就いて批判的紹介を寄稿せよと要求せられたが餘り關心をもたない筆者にとりては此上もなき難事である。

謂ふまでもなく永年間に運送事務に習熟し、我邦國有鐵道界の權威者で小運送業務指針小運送讀本など數種の斯業に關係ある著作を公にせられて居る點から見て此の執筆者後屋敷氏に比肩すべき適當なる著述力ある人士は他に求め得られざる所であるは、勿論である、執筆者は小運送法を専門的に説明するものでなく小運送問題の重要性に關し世人を啓蒙するに過ぎないと言はるるも僅かに十八條に過ぎない小運送業法（昭和十二年四月五日法律第四十五號）と二

十六條より成る日本通運株式會社法（昭和十二年四月五日法律第四十六號）とを三百頁に垂んとする紙數を費して説明を加へて居る、實に本書は我邦小運送事業に關する空前なる組織的なコンメンタリーである。吾々實生活の上に重要なる關係をもつ小運送事業について其法規の取扱と事業の處理とに無關心である者の多き現代には必須的著述であると言つても決して過當な諛辭ではなからう。

其の記述する所は我國陸上小運送の發達史を第一にか、げて制度の變遷に及び次で小運送の重要性を經濟上より商取引上より鐵道運賃政策上より將又國防上より多角度の觀察を下し十分讀者に小運送の豫備智識。又は綜合的觀念を與へて復法制上の註解を試みて居る。更らに進んで陸運の

監督制度竝に日本通運會社法を論じて小運送業の現況をも述べて居る。寔に餘す所なく洩らす所なき著作である。乍去筆者をして忌憚なく一言愚見を述ぶることを許さるるならば小運送に對して國民が負擔する金額が一年間に約三億圓以上に達し鐵道の貨物運賃の倍額よりも多額なるに鑑みて其の適正運賃の決定は實に重大なるものがあると謂はなければならぬ。其の適正運賃決定に關して當然發生する問題は積載定量問題である而かも陸上小運送の運搬用具が貨物自動車、荷馬車、荷手車、自轉車リヤーカー、オート三輪車、橇等である。此等運搬用具と道路橋梁の構造舗裝等と重要な關係を有するものであつて、道路橋梁の構造舗裝が運搬用具に及ぼす影響殊にガソリンの消費量タイヤ一の損傷車輪の磨滅の如き見遁すべからざる諸點がある。此點は運賃決定上實に興味ある問題である、依つて吾人は、此點に關して執筆者は如何なる觀察と意見とを抱かれて居るか承りたい、庶幾くは其の示教の機會を與へられんことを。

## 春夏混題

田中野狐禪

荷下るせる馬喰む草や風薫る  
薰風や母國の港眼の前に  
大の字に寝て薰風の青曇  
薰風や店引きぬけの土間暖簾  
芍藥の花つけぬまゝ刈りこかし  
芍藥に野鼠逐ふ蕪の影濃けれ  
芍藥の牡丹あざむく花もがな  
捨て飯に雀下りるや芍藥花  
柳垂れぬ砂利積む船のあゆび板  
さんざめく灯の二階かな柳越し  
風の柳釣堀の旗暗れてあり  
渡船場へ急がん心や土手柳  
宿浴衣男もすなる赤き紐  
欄にさぼす派手な浴衣や桐の風  
母が着しが今年似合へる浴衣哉  
戯れ口に廓素見や浴衣人  
帽飛ばして逐ふて及ばず浴衣人